



位置図

特記事項

(工事概要)

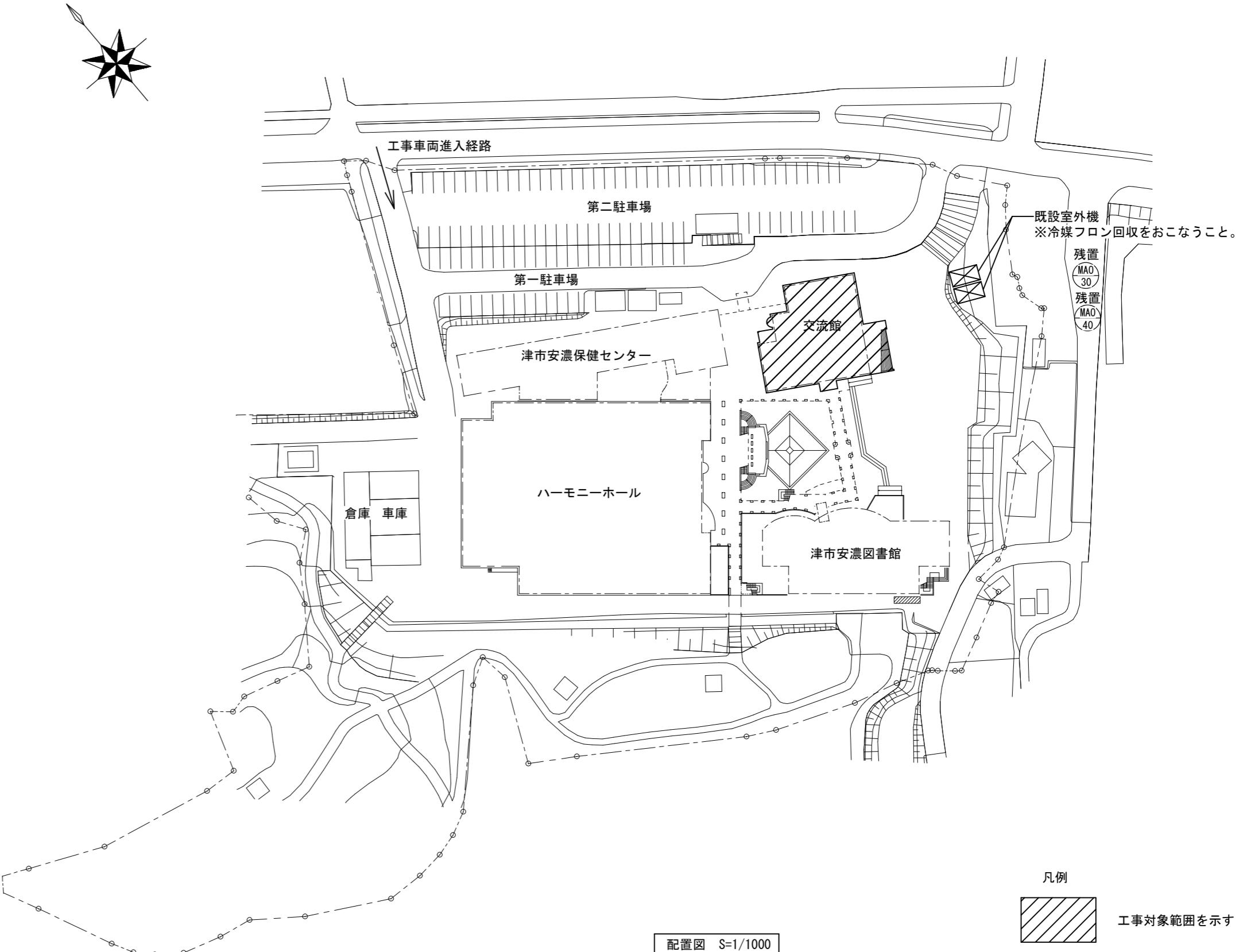
- 既設の空調設備を残置の上、新設を行う。
- ※更新箇所は図示による

(施工条件)

- 契約締結後速やかに詳細な工程を調整の上決定すること。
- 作業着手までの期間に調査及び、施工計画書等を作成し、市監督員の承諾を得ること。
- 作業着手までの施設内調査は、事前に市監督員の承諾を得るものとし、施設運営に影響を与えない範囲とする。
- 工事期間中も施設を利用するため、安全対策には十分配慮すること。
- 本工事は、平日作業可とするが、施設運営に支障のない範囲（騒音・振動の無い作業に限る）とする。
- 騒音を伴う作業を行う工程は施設管理者と協議のうえ決定すること。
- 大型車両の出入りの際には誘導員を配置すること。
- 作業着手前には、現況状況把握の為に破損箇所等あれば、写真に記録しておくこと。また、工事過程に於いて既設施設に破損等を与えた場合は、受注者の負担に於いて速やかに復旧すると共に市監督員に報告をすること。
- 設計書に明記なくとも機能上及び構造上当然必要と認められるもの並びに、取合いのはつり補修復旧は本工事に含む。なお、内訳書の数量は参考とし、当図面を優先する。
- 工事用水、電力については既存の施設を無償で利用できる。但し、施設運営に影響しないよう事前に打合わせのうえ計画し施工すること。
- 工事用車両及び工事関係車両は、周辺道路に駐車しないこと。
- 受注者は再生資源の利用又は建設副産物の搬出がある場合は、工事着手及び工事完了後に「再生資源利用計画書（実施書）」、「再生資源利用促進計画書（実施書）」を監督員に提出することとし、工事着手前にはJACICが運営する「建設副産物情報交換システム」へデータ入力し、工事完了時にはシステムへ実績報告を行うこと。

(解体撤去処分)

- 本工事により発生する廃材は、産業廃棄物となるため関係法令により適切に処理すること。
- また、工事着手前に、施工方法を記した施工計画書を市監督員に提出し承諾を得ること。
- 工事完了後、マニフェストA、B2、D票を市監督員に提示すること。
- 工事着手に先立ち、石綿含有建材の使用について、目視、設計図書及び貸与資料等により書面調査及び現地調査し、監督職員に報告すること。
- 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」「労働安全衛生法」「大気汚染防止法」等を遵守すること。
- 「石綿障害予防規則」に基づく石綿作業主任者を選任し管理すること。
- 当該工事を施工するに当たって施工時にフロン類の充填、回収作業を伴う場合は、フロン類の使用的合理化及び管理の適正化に関する法律（令和2年4月1日施行）等の関係法令を遵守し、第1種フロン類充填回収登録業者が行うこと。



図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、以下による

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

「公共建築工事標準仕様書（建築、電気、機械設備工事編）令和4年版」

「公共建築改修工事標準仕様書（建築、電気、機械設備工事編）令和4年版」

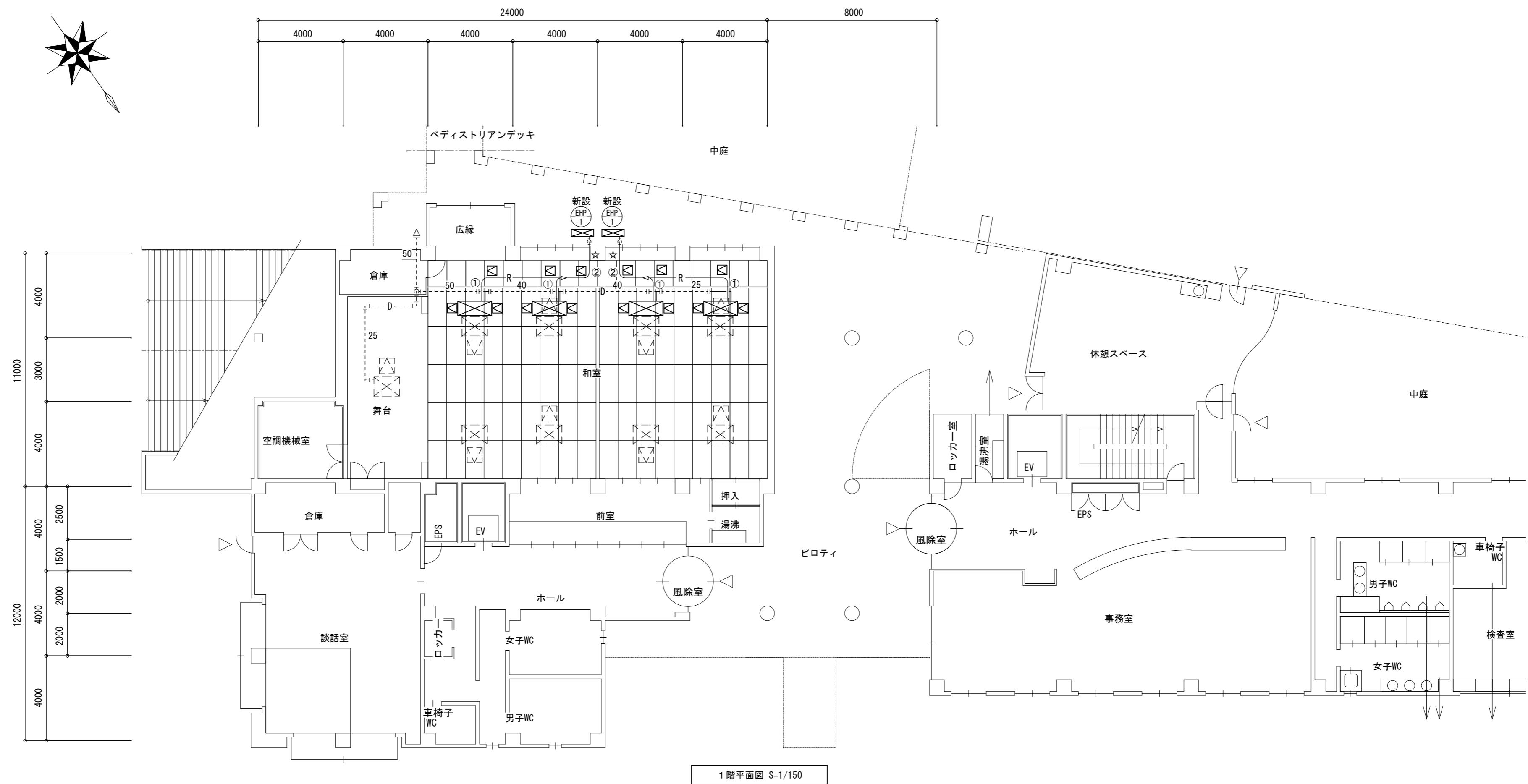
「公共建築設備工事標準図（電気、機械設備工事編）令和4年版」

「建築、電気、機械設備工事監理指針令和元年版」

独立行政法人 建築研究所監修

「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」

津市サンヒルズ安濃空調設備改修工事		縮尺 1/1000
図面名称	位置図・配置図・特記事項	原図：A 2
津市建設部営繕課		No. 1/4



空調機器表 (新設) 空冷ヒートポンプ式

記号	形式・名称	仕様	台数
EHP-1	パッケージエアコン	冷房能力: 25.0kW 暖房能力: 28.0kW 3相200v	2
	天吊形 同時ツイン	室外機: 既製コンクリート架台、風向調整板	
		ワイヤレスリモコン、ドレンアップ	
		他付属品一式	

特記事項

運転特性、能力はJIS条件による。

空調機トップランナーベース改定仕様とする。冷媒ガスはオゾン破壊係数ゼロとする。

機器は同等品以上とする。また、グリーン購入法基準を適用するものとする。

機器の製作仕様は国土交通省仕様とする。但し該当しない機器については製造者標準仕様による。

凡例

図示記号	名 称	備考
---	新設配管	
-----	既設配管	
-----+-----	既設配管 新設配管接続部分	
R ——	冷媒管	空調用保溫付被覆銅管 保溫厚 液管: 10mm ガス管: 20mm 保溫仕様 屋外露出: ポリスチレン保溫筒+SUSラッキング仕上げ
D ——	ドレン管	硬質ポリ塩化ビニル管 (VP) 天井内: グラスウール+アルミガラスクロス化粧保溫筒
☆	コア抜き	
□	既設天井点検口	□700
□	新設天井点検口	□450

冷媒管リスト

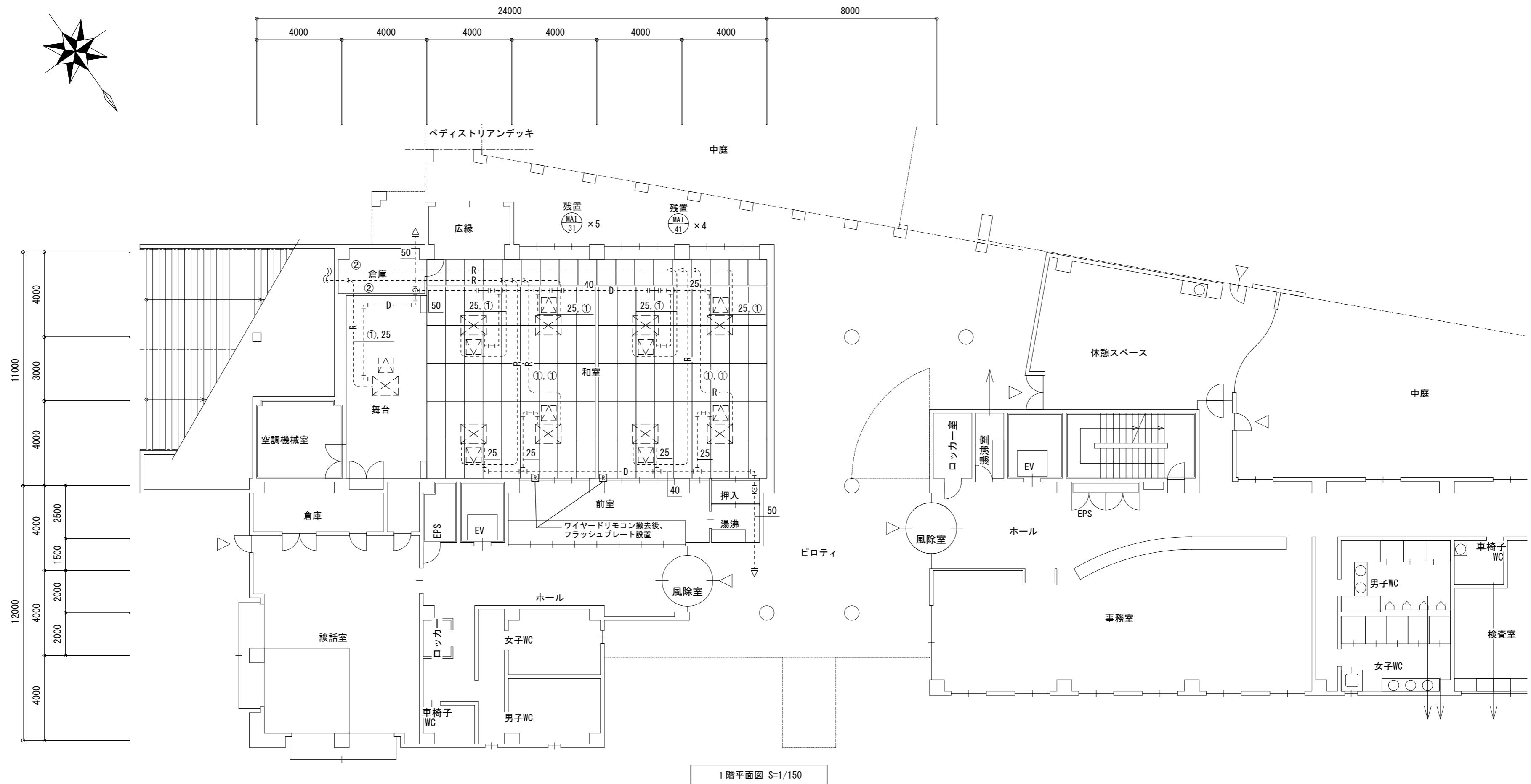
記号	液管	ガス管	室内外連絡線
①	φ 9.52	φ 15.88	EM-EEF2.0-3C
②	φ 12.7	φ 25.4	EM-EEF2.0-3C

空調設備工事要領

- 空調室内外機を新設する。
- 冷媒管、室内外連絡線は新設とする。
- ドレン管は既設配管に接続する。
- 室外機はSUS製ボルトにて固定、ワットにて締付けること。
- 室内外機は耐震振れ止めを施す事。

※外壁の塗材に石綿が含有しているとみなすため、適正に処理および処分を行うこと。

津市建設部営繕課	原図: A 2	図面名称	平面図 (改修後)	総尺 1/150
				No. 2/4



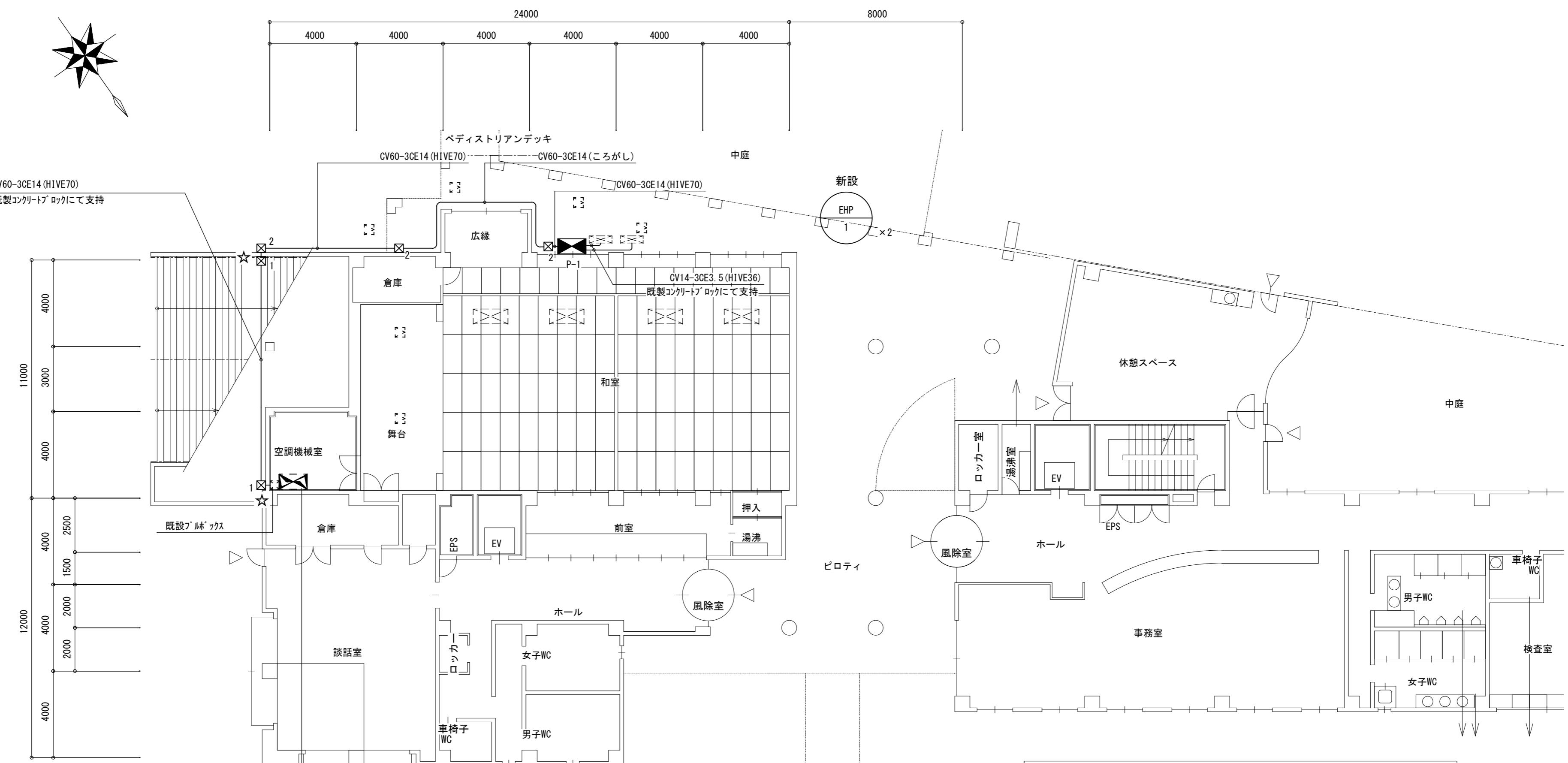
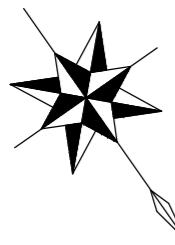
空調機器表 空冷ヒートポンプ式			
記号	形式・名称	仕様	台数
MAO-30	ビル用マルチエアコン	冷房能力 : 45.0kW 暖房能力 : 50.0kW	1
	室外機	3相200v	
MAI-31	ビル用マルチエアコン	冷房能力 : 11.2kW 暖房能力 : 12.0kW	5
	室内機（天井埋込型）	単相200v	
MAO-40	ビル用マルチエアコン	冷房能力 : 45.0kW 暖房能力 : 50.0kW	1
	室外機	3相200v	
MAI-41	ビル用マルチエアコン	冷房能力 : 11.2kW 暖房能力 : 12.0kW	4
	室内機（天井埋込型）	単相200v	

凡例		
図示記号	名 称	備考
—	撤去配管	
-----	既設配管	
----+---	既設配管 撤去配管 切断部分	
R —	冷媒管	空調用保溫付被覆銅管 保溫厚 液管 : 10mm ガス管 : 20mm 保溫仕様 屋外露出 : ポリスチレン保溫筒+SUSラッキング仕上げ
D —	ドレン管	硬質ポリ塩化ビニル管 (VP) 天井内 : ガラスウール+アルミガラスクロス化粧保溫筒
[R]	ワイヤードリモコン	
[E]	既設天井点検口	□700

冷媒管リスト		
記号	液管	ガス管
①	φ9.5	φ19.0
②	φ15.9	φ38.1

空調設備工事要領	
1.	空調室内外機は残置とする。
2.	室内外連絡線、リモコン制御線は残置とし、冷媒管は抜き後、残置とする。
3.	既設のワイヤードリモコンを撤去し、フラッシュプレートを設置する。
4.	ドレン管は切離し後、新設機器接続まで養生しておくこと。

津市サンヒルズ安濃空調設備改修工事	
図面名称	平面図 (改修前)
津市建設部営繕課	No. 3/4



凡尔

- ☒ 1 プルボックス 塗装鋼板製 400×400×400
 - ☒ 2 プルボックス SUS WP 400×400×400
 -  動力盤
 -  壁貫通処理

※外壁の塗材に石綿が含有しているとみなすため、適正に処理および処分を行うこと。

合計容量 : 19.3 kW

50 A	X	EHP-1 和室空調	9.61 kW
50 A	X	EHP-1 和室空調	9.61 kW
15 A	X	予備	

新設 **P-1** 屋外壁掛型、SUS製

W ELCB3P50A/50A x 2
EICB3P50A/15A x 1

P-1 和室空調	9. 61 kW
P-1 和室空調	9. 61 kW

津市サンヒルズ安濃空調設備改修工事

縮尺
1/150

図面名称 電氣設備 平面図 (改修後)

原図：A 2

津市建設部當繕課

No. 4/4